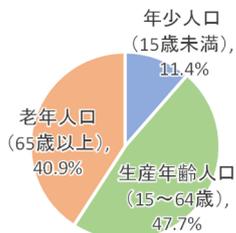


# 指杭 (さしくい)

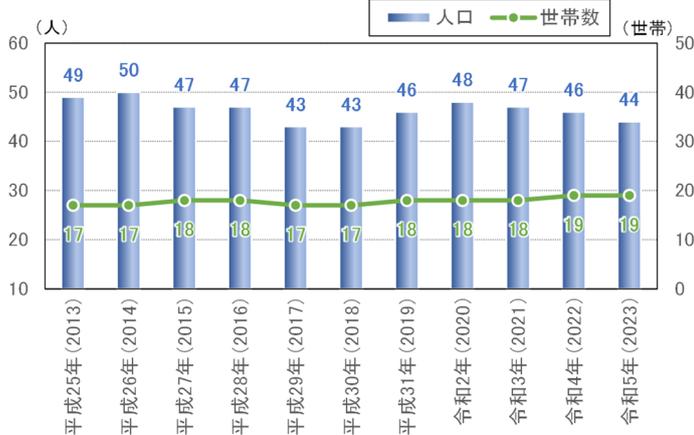
## 人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	44人
世帯数	19世帯
高齢化率	40.9%

### 年齢別人口割合



## 人口・世帯数の推移 (過去10年間)



## 区域の概要

**立地** 集落の南側を流れる田井川南岸に田畑が開け、狭い谷間に家屋が密集する。県道三尾浜坂線が川に並走する。

**地名由来** かつて一帯が沼地で、それを耕地にするために杭を刺していったことによるとも言われる(「たじま地名考」日本海新聞)。『ひょうごの地名』(吉田茂樹著)では、「サシ(焼畑)クイ(喰)」で、畑地が崖くずれを生じた土地をいうものとも考えられるとする。かつては叶村とも呼ばれたが、その由来は不明である。

**歴史等** 弘治3年(1557)の『但馬国にしかた日記』には「田井の指杭村」とあり、門前(現在の田井村)と一村であったとされ、寛永4年(1627)までは田井村や叶村と称した。清富との境の尾根上には、糸白城跡がある。

近世の指杭村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)因幡国若桜藩領、元和3年(1617)幕府領、寛永4年(1627)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は246石余。生業は沿岸漁業や農業で、近隣の村々との漁場争いや用水論争が数多く繰り広げられたことが記録に残る。

明治22年(1889)東浜村の大字となり、明治24年(1891)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数16、人口は男48・女42。

## これまで把握している文化財

文化財の件数 24件 (うち指定等文化財 2件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	0	
		石造物	0	0	
		工作物・その他の構造物	0	0	
	美術工芸品	彫刻	1	5	0
		絵画	0		0
		工芸品	2		0
		書跡・典籍	0		0
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	2	0	
		音楽	4	0	
		演劇	0	0	
		工芸技術	0	4	
		その他の無形文化財	0	0	
		信仰の場	2	0	
		祭具	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	民俗	0	2	0
		民具	0		0
		その他の有形の民俗文化財	0		0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	5	7	0
		民俗技術	0		0
		食文化	0		0
		民間説話・俗信	2		0
その他の無形の民俗文化財	0	0	0		
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	1	3	0
		古墳・その他の墓	1		0
		城館跡・寺社跡	1		0
		街道・古道等	0		0
		戦争遺跡	0		0
	その他の遺跡	0	0		
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	1	0
		海岸・海浜・島嶼	1		1
		河川・滝・渓谷・湖沼	0		0
		公園・庭園	0		0
その他の名勝地		0	0		
動物・植物・地質鉱物	動物	0	2	0	
	植物	1		0	
地質鉱物		1	0	1	
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



二方神社



指杭の六地藏(地藏堂)



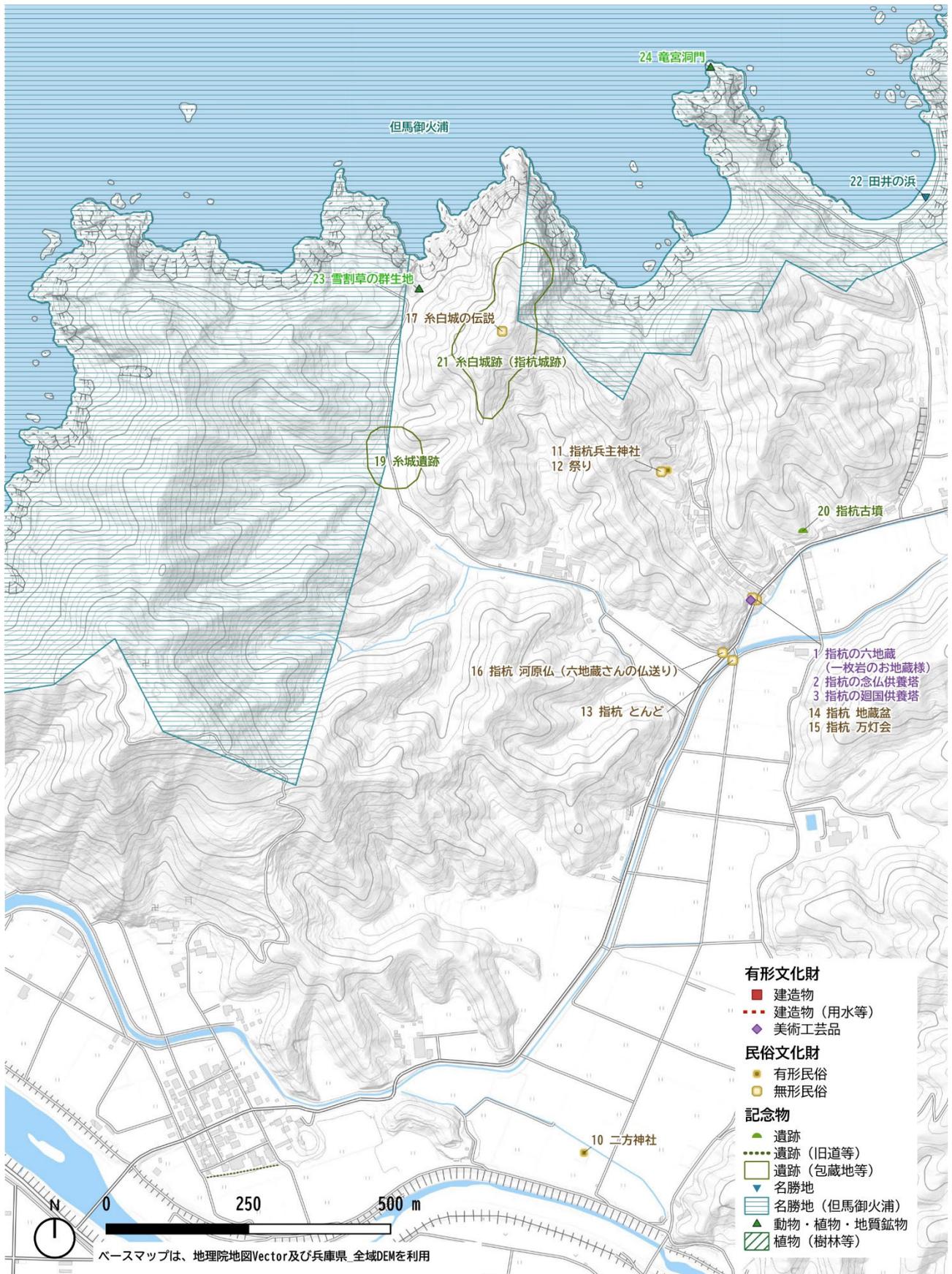
河原仏



とんど

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

## 1-04 指杭

### 文化財の一覧

#### ■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	1	指杭の六地藏	一枚岩のお地藏様。指杭の地藏堂内に安置されている。
工芸品	2	指杭の念仏供養塔 (1868年建立)	慶応4年(1868)9月建立。凝灰岩の自然石型。高さ200cm。主碑銘は「南無阿弥陀佛」。井伊大老と関係の深い彦根の清涼寺住職・25世俊龍和尚の筆。俊龍和尚は楞嚴寺で修行した縁故で揮毫してもらったと考えられる。
	3	指杭の廻国供養塔 (1766年建立)	明和3年(1766)3月建立。礫岩の自然石型。高さ110cm。主碑銘は「奉納大乘妙典六十六部日本廻国」。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	4	本庄屋宮元家文書	指杭村で江戸時代中期以降、長く庄屋を務めた本庄屋宮元家の近世・近代の文書。合計916点。近世の文書は575点、近代の文書は341点である。
	5	宮階孝雄文書	江戸時代初期(1622-1669)の指杭村年貢割付状ほか村文書。天保9年(1838)・安政2年(1851)京極藩記録文書。

#### ■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	6	わらべ唄(お月さん)	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p191 参照
	7	わらべ唄(カラス)	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p191 参照
	8	わらべ唄(かごめの唄)	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p195 参照
	9	わらべ唄(正月さん)	※『はまさかの民話(Ⅰ)』(平成元年、浜坂町公民館発行) p43 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p191 参照

#### ■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	10	二方神社	跡地。祭神は大己貴命、美尼布命とされる。創立年月は不明。延喜式の制小社に列する。天正6年(1578)5月12日の洪水で社殿が流失し、十余町下流の深淵に霊代が沈んだと伝わる。貞享3年(1686)に備中国福原安宏が一夜神託を受けて、村民とともに仮宮を設けて神霊を奉斎し、土俗土原様とも土原大明神と称した。明治6年(1873)10月に村社に列せられる。
	11	指杭兵主神社	祭神は須佐之男命。創立年月は不明。中世以来、天王社、三寶荒神と称した。明治初年(1868)に兵主神社と改称し、同6年(1873)10月に村社に列せられる。境内社には、稲荷神社(宇賀御魂命)がある。

#### ■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	12	指杭兵主神社の祭り	9月18日に開催される。赤崎地区の秋祭りの最初で、指杭の祭りを皮切りに地区内で秋祭りが行われる。
	13	指杭 とんど	1月7日に行われる。大きな炎をあげ、火の粉をあびて無病息災を祈る。お飾りとともに焼いたミカンを食べると風邪をひかないとされる。
	14	指杭 地藏盆	8月23日に行われる。村人がお堂に集まり、揃ってお経を唱える。
	15	指杭 万灯会	8月13日に行われる。和尚様が読経し、村人が念仏を唱える。
	16	指杭 河原仏 (六地藏さんの仏送り)	8月15日に行われる。各家々が田井川の河原に小石でしつらえた六地藏さんをお祭りして、仏送りを行う。一軒ごとに細かな仕様は異なるが、砂を集めて箱庭を作り、河原の石を拾い集めて積んでいく。

分類	番号	名称	概要
民間説話・俗信	17	糸白城の伝説	※『ふるさと浜坂シリーズ1「ふるさと浜坂散歩みち」』（平成4年、浜坂町教育委員会発行）p89 参照 ※『但馬の城』（昭和50年、但馬の城編集委員会編集、但馬文化協会発行）p135 参照
	18	土のこ (つち/つちぐちなわ)	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p199 参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p89 参照

#### ■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	19	糸城遺跡	奈良～平安時代の散布地。須恵器片数点が出土。
古墳・その他の墓	20	指杭古墳	古墳時代の古墳。円墳、径10m。横穴式石室（8×1.5×1.5m）が露出。
城館跡・寺社跡	21	糸白城跡（指杭城跡）	中世の城館跡。堀切・郭が残る。城主は矢谷氏（伯耆守・美作守）で、城は尾根筋に小曲輪群を配置することから南北朝期に築城起源をもつ。戦国期に堀切・堅堀や塹堀によって補強・改修されたものと思われる。芦屋城・相応峰寺城・居組城などとともに、海からの攻撃に備えた海城と考えられる。

#### ■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
海・海岸・島嶼	22	田井の浜	田井の浜周辺は花崗岩地域である。弧状に切り込まれた浜は河川の流入がないため、浜一帯が円形の白い花崗岩の玉石からなる。背後の松などの木々の緑と海の青さが織り成すコントラストが素晴らしい。周囲を取り巻く花崗岩には節理が多く走り、貫入岩脈も見られる。湾頭部の海蝕崖や島々は節理にそった幾何学的な地形をつくる。付近の海水の透明度は高く、青々として美しく、さざえ・あわびなど魚介類やわかめなどの海藻類も豊富なため湾頭部一帯は田井の浜海中公園に指定されている。浜辺にある円礫は付近の古墳などからも出土しており、古くから人々の生活に用いられていたことがわかる。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）

#### ■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	23	雪割草の群生地	サクラソウ科の多年草で、高山植物として日本全土の亜高山帯から高山帯に自生しており、海岸地帯に自生する群生は希少である。
地質鉱物	24	竜宮洞門	田井の浜の西側には花崗岩を切る帯状の断層破砕帯があり、その右の部分には節理に沿った洞門がある。破砕帯の様子が、竜が天に上る姿に似ているところから竜宮洞門と名付けられた。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）